

体験から学ぶ、共生社会

社会福祉学科 2533131 高比来璃桜

<自立センターあけぼので学んだこと>

「働く」を通じた自己肯定感の育成

ボールペンの箱詰め作業などを通じて、利用者の「できる」を尊重し、役割を与える機会があった。自分が作ったものを受け入れることで自己肯定感や社会の一員だという感覚が育まれるということを学んだ。

心に寄り添う支援

職員は作業を見守るだけでなく、利用者一人ひとりの体調や気持ちの変化に丁寧に寄り添い、安心できる環境づくりをしていた。信頼関係が支援の基盤となっていることを学んだ。



<寄り添い、共に生きるために大切なこと>



1.一人ひとりを尊重する

「障害者」という枠でとらえるのではなく、一人の人として理解することが大切。相手の特性を受け入れ、得意な方法でやり取りをすることが必要である。



2.自立を支える支援

待つことも見守ることも立派な支援。自立を尊重する関わりが本人の自信や達成感に繋がり、生活の質を高める。



3.共に生きる社会をつくる

障害者施設は生活を支える場だけでなく、地域や社会のつながりを持つ拠点。障害があるかどうかに関わらず、誰もが安心して暮らせる共生社会を目指すことが大切。

<障害者体験で学んだこと>

体験してみて、小さな段差や坂道での移動が大変など、バリアの多さを実感した。また、視界や体を制限されると自分が思うような行動ができず、不安が大きくなってしまったということを学んだ。助ける前に声をかけ、その人のペースに合わせて支援していくことが大切だと学んだ。



<今後どのように活かしていく...? >

障害者施設や車椅子・白杖・妊婦・高齢者体験を通して、一人ひとりを尊重すること、できる部分を見守ること、安心できる関係をつくることの大切さを実感した。実際に体験したからこそ、配慮や声掛けが相手にとって大きな支えになるということを理解した。助けることも大切だが、助けすぎずに見守り、自立を支えていくことも今後誰もが安心して暮らせる社会をつくるための第一歩だと考えた。



障がいへの理解を深めるフィールドスタディーズ

2537116 渡部 夏羽

活動内容

事前学習

ユニバーサルデザインとは

年齢・性別・障がい、国籍、文化などに関わらず、誰もが利用しやすいデザインのこと

訪問先について

- ・ 訪問先で何を学びたいかの整理
- ・ 法人制度やサービスの種類の種類、職員の役割、利用者の特性の理解

8.27.火 事前学習

8.28.木 施設体験

施設での学び

- ・ コミュニケーションが障がい理解への一歩
- ・ 障がいの有無に関わらず、一人の人として尊重することが大切

9.2.火 障がい体験

体験での学び

- ・ 支援とは単なる補助ではなく、相手の不安を理解し、尊厳を大切にしたいかかわりである

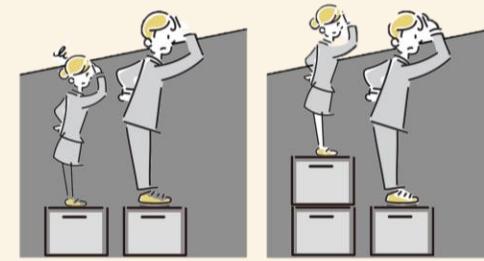
9.5.金 まとめ

障がい支援施設訪問や体験、そしてその学びの共有を通して、障がい者の苦労や、日常生活における支援の具体的手法を学んだ

気づき —障がいの「差別」と「区別」—



気の遣い過ぎ
できることまで奪うのは
自立を妨げる



平等と公平
同じ扱いだと
不利になる人もいる



正しい区別は支援に
必要な支援をすることは
差別ではない

将来への繋がり

- ・ 施設や学校だけでなく、家庭や地域、行政行事など社会的支援が十分ではない現状を踏まえつつ、生活や余暇活動を支える支援に関わりたい
- ・ 教員志望として今から発達心理学や障害について学び、障がいの有無に関わらず安心して学べる教育環境をつくりたい

- ・ 「寄り添う姿勢」と「正しい区別」が大切
- ・ 社会全体が理解し、必要な支援を整えることが障がい者の自立につながる